

退院日当日の訪問看護

- 退院支援指導加算の算定者数は増加傾向。
- 退院支援指導加算の算定利用者のうち、約66%が別表8の利用者だった。

■ 退院支援指導加算 6,000円

【対象者】

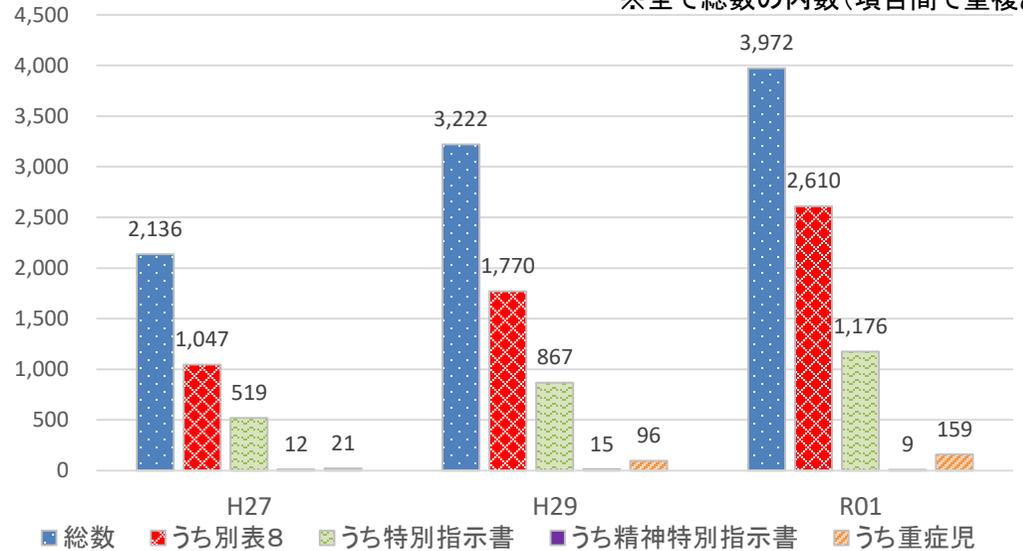
- (1) 特掲診療料の施設基準等別表第七に掲げる疾病等の者
- (2) 特掲診療料の施設基準等別表第八に掲げる者
- (3) 退院日の訪問看護が必要であると認められた者

- ・保険医療機関から退院するに当たって、訪問看護ステーションの看護師等(准看護師を除く。)が、**退院日に在宅での療養上必要な指導を行った場合に初日の指定訪問看護の実施日に1回に限り訪問看護管理療養費に加算する。**ただし、当該者が退院日の翌日以降初日の指定訪問看護が行われる前に死亡あるいは再入院した場合には、死亡若しくは再入院日に算定する。なお、訪問看護管理療養費を算定する月の前月に退院支援指導を行った場合においても算定できる。
- ・退院支援指導加算は、利用者の退院時に訪問看護指示書の交付を受けている場合に算定する。
- ・退院支援指導加算は、**1人の利用者に対し、1つの訪問看護ステーションにおいてのみ算定**できる。

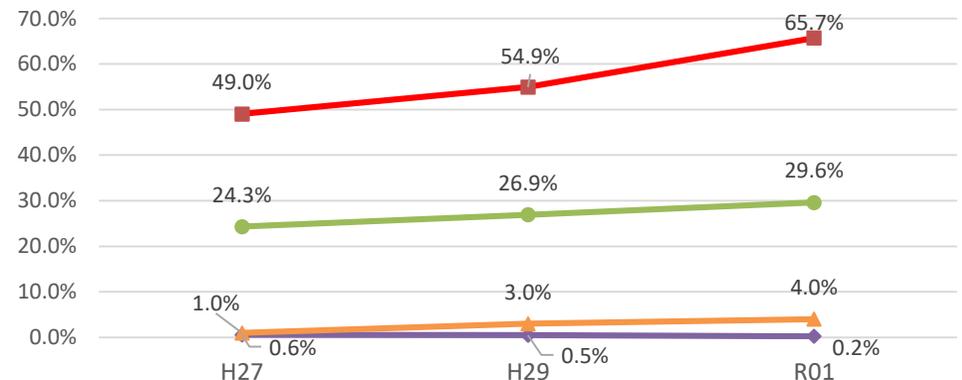
※退院当日は訪問看護基本療養費が算定できない

■ 別表8等該当有無別の退院支援指導加算の算定者数(推計)

※全て総数の内数(項目間で重複あり)



■ 退院支援指導加算の算定者数の総数に占める割合



■ 別表8の割合 ■ 特別指示書の割合 ■ 精神特別指示書の割合 ■ 重症児の割合

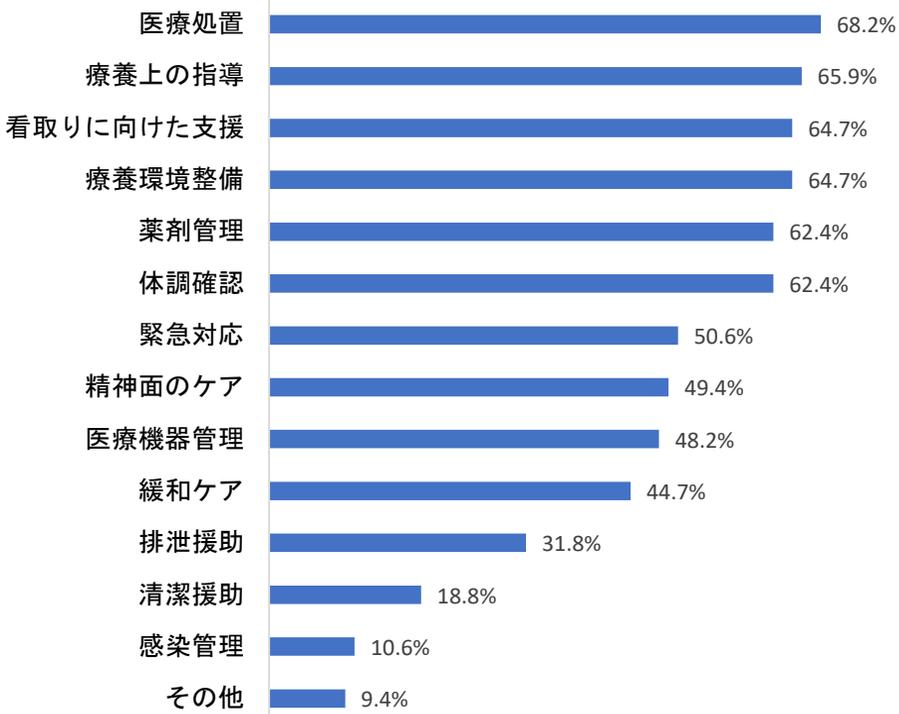
退院日当日の訪問看護

○ 訪問看護ステーションの約半数が退院当日に長時間の訪問を実施したことがあり、退院当日に実施したケア内容では「医療処置」が最も多かった。

■ 訪問看護ステーションにおける退院当日に実施した事例の有無 (n=141)



■ 退院当日に実施したケア内容 (n=85)



事例1

生後1ヶ月女児 先天性筋疾患の疑い

【退院時の状態】

体重2,880g

筋緊張低下、哺乳不良にて経鼻栄養。ミルクの投与量を調整中

【退院当日の看護】

①児の状態観察。胃管の固定位置が看護サマリーと異なっていたため病院に問い合わせ、退院前に変更されていたことを確認。

②45分かけてミルク60mlを注入、母の手技で児がげっぷを出せることを確認。また、70mlに増量しても嘔吐ないことを確認。

③緊急時の蘇生方法指導と連絡方法の確認、肛門の綿棒刺激方法指導

⑤スキンケア用品等の情報提供

事例2

80歳代女性 ALS

数ヶ月前より転倒や呼吸障害あり、去痰困難、CO2ナルコーシスを認めて入院。気管切開の上、人工呼吸管理となった。退院に伴い、在宅医・訪問看護導入。

【退院時の状態】

退院に伴い、80歳代の夫とともに長女宅の近くに転居。トイレ歩行可能。

本人、夫ともに在宅での生活に不安が強い。

【退院当日の看護】

①氏の状態観察。

②在宅医とケアマネージャーも同時刻に訪問しており、在宅医からの緊急対応等の説明への同席、関係者間の情報共有を実施。

③環境調整(安全性や動線等を考慮したベッドと人工呼吸器配置の調整、呼吸器を装着したままのトイレ歩行の動線確認、医療材料の保管に係る助言等)

④家族の医療的ケアの手技確認(気管吸引や呼吸器アラーム時の対応、気管カニューレ保護下での体位変換等)

⑤注意点等指導(緊急時の連絡方法の確認等)

訪問看護に係る課題(小括2)

(複数名訪問看護加算等について)

- ・複数名訪問看護加算の算定回数は増加傾向であり、看護補助者が同行する複数名訪問看護においても、別表7や別表8に該当する利用者や特別訪問看護指示書の交付を受けた利用者が多い。
- ・訪問看護ステーションにおける看護補助者は職種別従事者の1%で、看護補助者を雇用している訪問看護ステーションは機能強化型で14%、機能強化型以外で5.6%だった。
- ・難病等複数回訪問加算の算定回数及び算定人数は増加傾向となっている。

(退院支援指導加算について)

- ・退院支援指導加算の算定者数は増加傾向で、算定利用者のうち、約66%が別表8の利用者だった。
- ・訪問看護ステーションの約半数が退院当日に長時間の訪問を実施したことがあり、退院当日に実施したケア内容では「医療処置」が最も多かった